



Title	デザイン理論 51号 投稿規定 / 執筆要領 / 編集後記 / 奥付
Author(s)	
Citation	デザイン理論. 2007, 51, p. 117-119
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/51145
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

「デザイン理論」投稿規程

昭和37年11月11日改正, 昭和60年11月8日改正
平成2年11月10日改正, 平成6年7月9日改正
平成14年11月9日改正, 平成18年11月18日改正

1. 内 容：デザインに関する未発表の論文, 研究報告等。
2. 投稿資格：本会会員
3. 採 択：採否及び掲載号については編集委員会が決定する。
4. 査 読：学術論文については, 編集委員会が査読者2名に依頼する。査読結果は編集委員会が本人に通知する。結果は, (A)無条件採用, (B)条件付採用, (C)不採用とする。
5. 執筆要領：別に定める。
6. 提出期限：基本的には随時。ただし, 学術論文は, 査読のため, 5月春号掲載希望は, 1月15日, 11月秋号掲載希望は, 6月30日を締め切りとする。

学術論文以外は, これは投稿予告の期限で, 実際の投稿期限は, それぞれ3月31日, 8月31日とする。

7. 提 出 先：意匠学会編集委員会

付記（著作権について）

- ・本学会誌に掲載された論文の著作権および編集出版権は本学会に帰属するものとする。
たとえば論文集または電子データの形で出版する権利, またデジタル・アーカイブ化等の権利である。
- ・ただし著者本人が利用する場合には制約を受けない。

なお以上の規程は, 平成18年11月18日より発効する。

1. 原 稿

- ・原稿は、ワープロあるいはパソコン・ソフトで作成することが望ましい。
- ・A4大の用紙に1行40字、1頁32行程度で作成すること。
- ・学術論文の場合は、A4サイズのレイアウト見本3部同封して編集委員会宛に投稿すること。（テキスト・データ、図表版下あるいは図表データは査読を経て掲載が決まった段階で、最終原稿として最終的なレイアウト見本とともに編集委員会宛に郵送する。）
- ・研究報告の場合は、テキストおよび図表データとA4サイズのレイアウト見本を郵送する。
- ・書評、図書紹介、発表要旨については、テキストおよび図表データとA4サイズのレイアウト見本を編集事務局に郵送するか、あるいは編集担当者に電子メールに添付して送付する。
- ・学術論文、研究報告、等の本文データのファイル形式はプレーン・テキストかワードに限る。
- ・学術論文、研究報告、等の図表をデータで提出する場合、ファイル形式はJPEG、TIFF等の一般的なものとし、解像度、画像サイズ等を適切に設定すること。またその場合も必ずデータのプリントアウトを添付すること。
- ・原稿用紙を使用する場合は、本文は400字詰横書き原稿用紙を使用し、レイアウト見本を付す。

- ・投稿に際しては、原稿のコピーを手許に保存すること。

2. 原稿の分量

- ・学術論文と研究報告の場合は、本文、図版、図表、注等をすべて含めて、刷り上りで、14頁以内。（400字詰原稿用紙で約45枚）
- ・書評の場合は、刷り上りで2頁、4頁、6頁等偶数頁に収まることが望ましい。
- ・図書紹介及び発表要旨の場合は、刷り上りで2頁に収めること。

3. 原稿の構成

- ・学術論文と研究報告の場合は、本文（図版、図表、注を含む）とは別に欧文要旨（原則として英文）を添付すること。
- ・本文第1頁に、表題、著者名、所属機関名、キーワード、目次を付すこと。
- ・欧文要旨は、刷り上り1頁とする。語数は約200語。当該言語を母国語とする人による校閲を得ておくこと。
- ・キーワード（和文と英文）は、それぞれ5語以内とする。

4. 図・表のレイアウトなど

- ・図版はモノクロームとし、位置の指定、大きさ、レイアウト、必要なトリミングなどはすべて執筆者が行うこと。
- ・図版などの著作権の問題があると思われる場合は、執筆者自身が事前に許可をとっておくこと。
- ・当学会は、著作権についての責任は負わない。

編集後記

会員それぞれにとって、意匠学会は何番目の学会なのだろう？ 編集事務の仕事では必然的に生の原稿に触れるわけですが、それらを見ていて時折そんなことを考えます。

投稿論文、査読結果報告書、それに対する回答書……。編集プロセスで交わされるこうした文書は、読者の目に触れることはありません。じつはこれが、形式・内容ともにさまざまなのです。投稿者の原稿だけでなく、査読者からの査読結果報告についても同様です。

その書き方は、おそらくその方にとっての第一番目の学会では標準であり常識なのでしょう。たまたま意匠学会とはちょっと違う。本来は投稿先に応じてやり方を変えるべきだけど、つつい身に付いた流儀でやってしまった。いちおう、そう思うことにしています。

ここまで考えて、それでは、と思うわけです。意匠学会の流儀というものがあるとして、逆に、それはどれだけ広く通用するものだろうか、と。それはこれまでの歴史の中で改善と工夫が積み重ねられてきたものはずで、一定の必然性のあるものだと思います。しかし、学会内部で緩やかに交替する会員構成において、その標準が広く共有できているかどうかは再考の必要があるでしょう。一方、対外的に学会としての存在意義を高めるためには、ローカル・ルールに閉じこもるわけにはいきません。学術界の趨勢に対応して、意匠学会の標準もまた検証される必要があるでしょう。

もとより横断的・学際的な性質の意匠学—デザイン学を志す学会です。何番目かというような効率優先の発想よりも、順位に関わらず、会員各位にとって欠くことのできない確実な一隅を占める存在であることが、持続的な発展につながるだろう。とりあえずはこういう考えに至ったのですが、皆様はどうお考えでしょうか。（文責：梅宮 弘光）

編集委員

伊東徹夫	梅宮弘光（副委員長）	
太田喬夫	榊原吉郎	佐藤敬二
島先京一	末包伸吾	並木誠士
藪 亨	横川公子	
渡辺 眞	（委員長）	

デザイン理論 51号

Journal of the Japan Society
of Design, 51/2007

発行日 2007年11月10日

発行 意匠学会

事務局 〒560-8532

大阪府豊中市待兼山1-5

大阪大学大学院文学研究科芸術学講座内

TEL 06-6850-5120

FAX 06-6850-5121

発行者

意匠学会 編集委員会

事務局 〒610-1197

京都市西京区大枝沓掛町13-6

京都市立芸術大学美術学部第3研究室群合同研究室内

TEL/FAX 075-334-2255

編集責任者 渡辺 眞

印刷所 (株)北斗プリント社
